

水害から暮らしを守る 放水路の仕組みを勉強

カスリン・アイオン台風から70年 さいかわ 吸川放水路トンネル見学会

県南広域振興局土木部 一関土木センター

6月9日、一級河川吸川の放水路トンネルにおいて、一関市立南小学校4年生(83名)を対象とした施設見学会を開催しました。この見学会は、社会科見学と総合学習の一環として、平成16年から開催されています。

当日は、若手職員の泉田技師から、学区内を流れる吸川が氾濫しないための放水路トンネルの仕組みや役割などを説明し、その後、実際にトンネルに入って、施設の大きさなどを体験しました。参加した児童はトンネルが南小学校そばまでつながっていることに驚き、全員で学校まで届くよう大きな声で「南小学校4年生〜!!」と叫び、トンネル内に響きわたりました。(その迫力は圧巻)



↑ 放水路トンネルの仕組みや役割を説明



↑ 中はひんやり、声が大反響!

← 「せーの!」で一斉に叫んだ声は学校まで届いた?!

今年、「カスリン・アイオン70年」として関連行事が多数開催されます。当センターでも一関市の重要な水防施設である当該トンネルを一般市民の方にも理解していただき、水害への認識を改めて深めていただくきっかけにできればと考えています。

■ 「カスリン・アイオン70年」ロゴマークのデザインとコンセプト ■

青い線は「北上川」と「支川」、緑の線は「整備された堤防」、水色の渦は「大型の台風」をイメージし、「70年」の歳月を表現しています。水害の記憶や教訓を風化させず伝承するとともに、これからの防災を地域住民としっかり考え、「被害の最小化」を目指す想いが込められています。



胸に刻もう

『カスリン・アイオン台風70年』

～風化させない歴史とつなげる未来～

児童からいただいた感想文

後日、小学校から参加児童の感想文をいただきました。

「放水路が大雨の被害を防いでいることを知りました」「とても大きくてびっくりしました」「普段は入れないところに入れて楽しかったです」などの感想や、中には「これからも応援するので一生けんめい働いてください」とか「ぼくも放水路の仕事をやりたい」などという励ましもいただきました。

現在、一関合同庁舎1階に展示しており、今後は場所を変えた展示も検討したいと考えています。



初の職員による清掃

見学会が安全に実施できるよう、開催直前に、河川砂防チームを中心に職員による清掃を2回行いました。職員による清掃は今年が初めてで、**自らも改めて社会資本整備の大切さを認識する機会**となりました。



一口メモ ～吸川放水路トンネルの歴史～

一関市は、古くから北上川と磐井川の氾濫に苦しめられ、特に昭和22年・23年のカスリン・アイオン台風により、一関市の中心市街地とその周辺は壊滅状態になりました。

一方、磐井川支流の吸川は流域面積の小さい典型的な都市河川で、ちょっとした氾濫が大きな被害に結びつき、幾度となく多大な災害を繰り返してきたことから、一関市の発展上欠くべからざるものとして県が当該トンネルを整備しました。

吸川放水路トンネルは、市街地を流れる新山川・吸川と磐井川を結び、昭和47年着工、56年に完成しました。(長さ1,631m、幅11.8m、高さ8.4m)

